

学校
便り

中種子町立星原小学校

いwashimizu

令和8年度第1号

令和8年4月20日発行



<http://hoshihara.synapse-blog.jp/>

小さな一歩は、未来へ続く一歩

校長 米村 圭史

春の柔らかな日差しが校庭を包み、星原小学校に新しい一年が始まりました。校舎をわたる風の中に、子どもたちの笑顔と少しの緊張が混じり合う、そんな4月です。

先日行われた入学式では、1名の新1年生を、全校児童、教職員、そして保護者・地域の皆様とともに迎えることができました。千葉県からのうみがめ留学生として本校に来ていただき、本来、予定がなかった入学式を、1名の留学生のおかげで行うことができました。新しい制服に身を包み、少し大きなランドセルを背負った姿は、星原小学校の希望そのものでした。



式が始まる直前、1年生は保護者の方の手をぎゅっと握りしめ、なかなか手を離せずに立ち止まっていました。緊張と不安でいっぱい表情でしたが、担任の先生が目線を合わせ、「大丈夫だよ。一緒に行こう」と声をかけると、小さくうなずき、一歩を踏み出しました。その一歩は決して大きくはありません。しかし、その一歩には初めての小学校、初めての星原と「はじめての挑戦」が詰まっていました。

入学式では、名前を呼ばれると、少し戸惑いながらも元気に返事をする姿、来賓の話をしっかり聞く姿、そのどれもが「自分なりに頑張っている姿」であり、会場全体が温かな空気に包まれました。

在校生が、まっすぐな姿勢で歓迎の唄を歌う姿も、大変立派でした。「困ったときは、いつでも声をかけてください。」そのようなメッセージには、これまで星原小学校で育ててきた優しさと責任感が、しっかりと表れていました。新1年生がその言葉を真剣な表情で聞いている様子を見て、学校という場所が、こうして受け継がれていくのだと胸が熱くなりました。

以前、ある学校で、入学したばかりの1年生が、朝の登校時に泣いて立ち止まってしまいました。理由は、「靴ひもが結べない」「迷惑をかけるのが怖い」というものでした。そのとき、近くにいた6年生の女の子が何も言わずにしゃがみ込み、ゆっくりと靴ひもを結びながら、声をかけていました。「大丈夫。できなくて当たり前だよ。私も最初はできなかった。」その言葉に、1年生は安心した表情で顔を上げ、涙をぬぐって歩き出しました。誰かの困りごとに気付き、そっと手を差し伸べる。その姿は、勉強以上に、学校が子供たちに伝えたい大切な力だと感じました。

星原小学校の入学式でも、同じ光景がありました。式の後、体育館の前で迷っている1年生に、自然と声をかけ、写真撮影の並び方を教える上級生の姿。手を引いて一緒に歩く同じクラスの2年生の姿。その一つ一つに、星原小の「やさしさの文化」が確かに息づいていました。

今年度、星原小学校が大切にしていきたいことは、「自分を大切に、仲間とともに成長すること」です。合言葉は「ひとりでもできる、みんなともできる」です。一人一人の小さな挑戦や思いやりが積み重なり、安心して学び、失敗し、また立ち上がれる学校を、みんなでつくっていきたいと考えています。

保護者・地域の皆様、子供たちの成長は、日々の何気ない励ましや見守りによって、大きく支えられています。本年度も、どうぞ星原小学校への温かいご支援とご協力をお願いいたします。

この春、星原小学校から踏み出した一歩が、子供たち一人一人の未来へと、力強く続いていくことを、心から願っています。